久しぶりに懐かしい人に会えて嬉しかったです。

当時のことが昨日のことのように思い出されました。

陽ざしの会の管理職的存在

平成 16～19 年に活動。厳しくも優しい指導で、頼もしい先輩！

心に残った思い出やそれぞれの近況を伝えあいました。

同期のテーブルで話が弾みました！

みんなと久しぶりに話して、サークルにいたときの思い出が浮かんできました。

花の障スポ組

平成 22～29 年に活動。同期が多くチームワーク力抜群！

◆現会長（小寺淑子）挨拶

今日はお忙しい中、こんなにたくさんの皆さまにご参加いただきましてありがとうございます。陽ざしの会も今年で 30 周年を迎えることになりました。多くの会員の皆さんの活動に支えられて、本日が迎えられたことを心から感謝申し上げます。

この 30 年間に聴覚障害者を始めとする障害者への法整備も少しずつ整えられてきました。要約筆記は通訳行為であり、コミュニケーション支援は聴覚障害者の権利擁護として確立しました。

私自身ボランティアだと思って飛び込んだこの世界でしたが、要約筆記に携わる者としての責任は重く、目標はまだまだ、はるか遠くにあります。

ひるがえって難聴者の皆さんは、30 年前と比べると、社会活動の場が広がったのではないでしょうか。補聴器や人口内耳などの機器の進歩に加え、音声認識アプリなども発達、また、若い方たちほど手話も同時に活用するなど、聞こえを補うものを駆使してコミュニケーションをとり、社会で活躍する姿は私たちにとっても喜ばしいことと思っています。

要約筆記派遣の現状を申し上げますと、それほど派遣数が増えているとは思えません。むしろ減少傾向にあります。周知されていないだけなのか、知っていても不要なのかと感じることもあります。

陽ざしの会の昔の写真を拝見すると、いつも楽しそうに陽ざしの会と難聴者協会の皆さんが並んでおられます。昔はどんな気持ちで活動なさっていたのでしょうか。思い出話の中に、私たちの今後の活動に活かせる言葉があるのでは、と期待しています。

（挨拶から一部抜粋）

◆第５代会長河野キヨさんの挨拶

30 周年おめでとうございます。

30 年という年月を考えてみますと、とてもじゃないですが長いようで短かったし、短いようで長かったと感じます。

要約筆記とは何か、いまだに考えております。

本日は同窓会のような気分です。

今後、ますます要約筆記が盛んになってほしいと思います。パソコンも大変だと思いますが、上手くいっていると聞いて安心しています。